

# 第三次みやき町総合計画 基本構想（案）

令和4年3月29日現在

（第2回みやき町総合計画審議会資料）

# I 序論

## 第1章 計画の策定にあたって

### 1 計画策定の趣旨

現在、みやき町を取り巻く環境は、劇的に変化しています。新型コロナウイルス感染症による社会経済への影響のほか、中長期的には、持続可能な目標（SDGs）への対応、社会保障費の急増が予想される2040年問題など、取り組まなければならない問題が山積しています。これらの社会経済情勢の大きな変化や課題に対し、より適切かつ柔軟に対応すべく、新しい時代を見据えた、持続可能なまちづくりの基盤となる「第三次みやき町総合計画」を策定します。

### 2 計画の構成、期間

第三次みやき町総合計画は、基本構想及び実行計画の2層構成とし、基本構想の期間を、令和4（2022）年度～令和14（2032）年度の11年間を計画期間とします。

実行計画は、基本構想を具現化するための中期的な事業計画として、前期、中期で見直しを行います。令和6（2024）年度及び令和10（2028）年度に数値目標や取組の検証と見直しを行い、令和14（2032）年度に第三次計画の総括を行います。

#### ◆基本構想・実行計画の期間

	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)
基本構想	計画期間										総括
実行計画	前期 見直し		中期 見直し				後期			総括	

## 第2章 社会の動きとみやき町の現状

### 1 社会潮流

#### (1) 人口減少と少子高齢化

現在わが国では、平成20(2008)年を境として、人口減少の時代に突入しており、国立社会保障・人口問題研究所が示す将来人口推計では、令和37(2055)年までには総人口が1億人を下回る予測が示されています。出生数が減少し続けている一方で、令和7(2025)年には団塊の世代が後期高齢者に達するなど、少子化・高齢化による人口構造の大きな変化が見込まれています。

また、東京をはじめとした大都市圏への人口集中も依然として進行しており、地方における人口減少に歯止めをかけるため、全国の自治体で移住・定住の促進や交流人口の増加に向け、地域資源を活用しながら町の魅力を向上し、広く発信する取組が進められています。

#### 【みやき町の現状】

人口動態を見ると、平成27(2015)年以降、毎年100人台の自然減、社会動態は平成27(2015)年以降、一貫して社会増であり、特に平成30年以降は大きく増加しています。

人口推移(P10)をみると、平成27(2015)年から令和2(2020)年にかけて人口増となっており、令和2(2020)年の人口実績は25,511人(出典：令和2年国勢調査(年齢不詳含む))で、第二次計画、第2期総合戦略策定時の推計値を上回り、人口減少が抑制されていることがうかがえます。

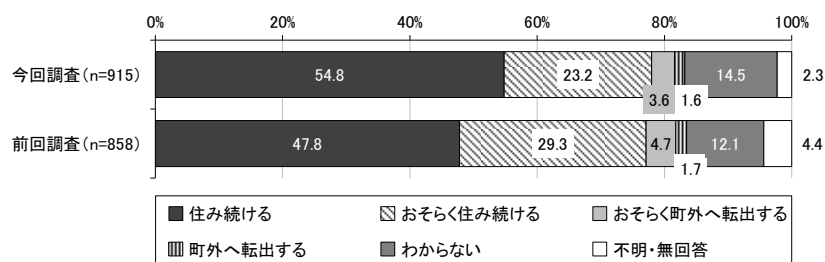
また、本町のアンケート調査結果では、みやき町への定住意向(「住み続ける」と回答した人の割合)は7.0ポイント増加しています。本町の誇る資源や魅力を精査し、住民にとって魅力ある豊かな暮らしを創出できる定住促進施策に取り組んでいくことが重要です。

#### ■人口動態(単位：人)

		出生	死亡	転入	転出	自然動態	社会動態
平成27年	2015	178	329	1,055	986	-151	69
平成28年	2016	200	297	923	846	-97	77
平成29年	2017	182	352	909	847	-170	62
平成30年	2018	217	348	1,286	933	-131	353
令和元年	2019	193	328	1,160	976	-135	184
令和2年	2020	196	310	1,038	804	-114	234

出典：みやき町資料

■問 3-2 あなたは、これからもずっとみやき町に住み続ける予定ですか。



※前回調査では「おそらく町外へ転出する」は「おそらく転居する」、  
「町外へ転出する」は「転居する」の選択肢

出典：総合計画策定のためのアンケート調査

## (2) 地域共生社会の実現

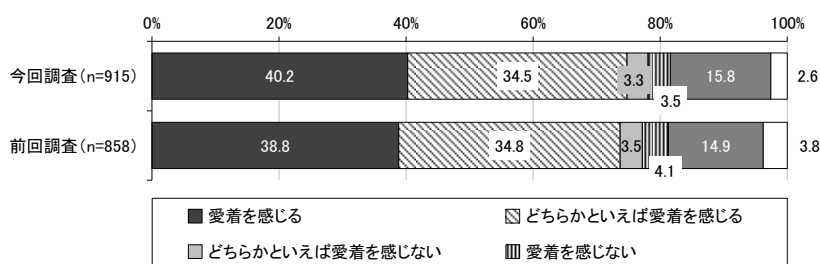
さまざまな価値観を持つ人々の人権や多様性を尊重し、すべての人が参画し、能力を発揮することができる社会づくりが求められています。国においては、差別の解消や女性の活躍などに向けた法整備を行うとともに、多様な主体が参画し、つながることで、暮らし・生きがい・地域を共に創っていく「地域共生社会」の実現に向けた取組が進められています。

### 【みやき町の現状】

本町は、中原・北茂安・三根の3つの校区からなり、校区ごとの地域活動も地域の独自性を反映し、賑わいをみせています。全国的に地域とのつながりの希薄化が課題となっている中、本町のアンケート調査結果では、前回調査（平成27年）と同様、7割以上の方がみやき町に「愛着を感じる」「どちらかといえば愛着を感じる」と回答しており、各種ワークショップでも、町の「いいところ」として良好な近所付き合いや地域とのつながりを挙げる意見が多数ありました。一方で、本町においても高齢化は急速に進んでいます。また、他市町から転入する世帯も多い中で、今後いかに地域のつながりを維持するかが課題となっています。

災害時などにおける地域のつながりや支え合いの大切さが再認識されているなか、行政と住民、団体、事業者などの協働による取組を一層強化し、それぞれが役割分担しながら、地域の課題解決に向け取り組んでいくことが重要です。

■問 3-1 みやき町に愛着を感じているか。



出典：総合計画策定のためのアンケート調査

### (3) 経済情勢と働く環境の変化

わが国の経済情勢は長期的に厳しい状況が続いており、低成長率の傾向が定着している状況に、新型コロナウイルス感染症による需要喪失という経済的影響が加わり深刻なものとなっています。一方、大部分の産業において人手不足が問題となっているなか、有効求人倍率は上昇傾向にありましたが、契約社員やパート・アルバイトといった非正規雇用者の解雇など、雇用状況の大きな変化がみられます。

また、近年は働き方改革の推進やライフスタイルの変容により、女性の社会進出やワーク・ライフ・バランスの取れた働き方の重要性も高まっています。性別や住んでいる場所によらない、自分らしい仕事と暮らしの両立ができる環境の整備が求められています。

#### 【みやき町の現状】

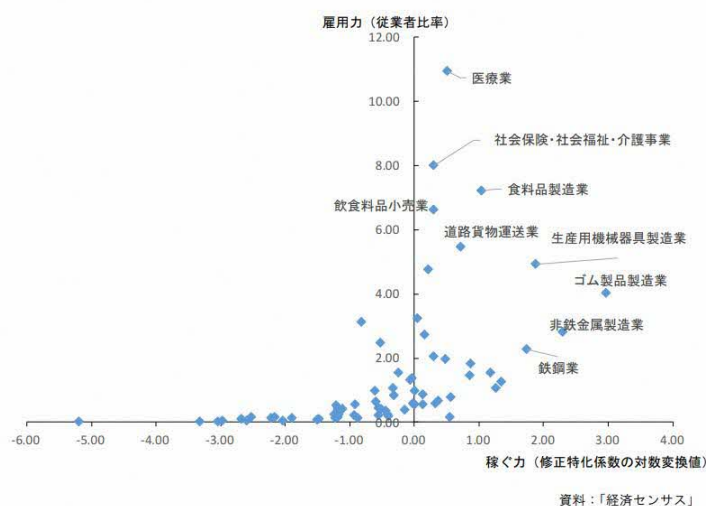
産業別就業者数は平成 28 (2016) 年で、「製造業」「医療、福祉」「卸売業、小売業」で全就業者数の 6 割を占めています。産業の中で、雇用力が最もあるのは「医療業」となっており、次いで、「社会保険・社会福祉・介護事業」、「食料品」、「製造業」と続いています。一方、稼ぐ力が最もあるものは「ゴム製品製造業」、次いで、「非鉄金属製造業」、「生産用機械器具製造業」、「鉄鋼業」と続いています。

近隣市町(鳥栖市/神崎市/吉野ヶ里町/基山町/上峰町)と比較すると、就業者数は鳥栖市、神崎市について 3 番目に多く、平成 22 (2014) 年から平成 28 (2016) 年にかけての増加率は吉野ヶ里町について 2 番目に高くなっています。

一方で、本町のアンケート調査結果で産業分野の満足度・重要度を見ると、農業、商業は、平均よりも満足度が低く、重要度が高い項目となっています。また、前回調査結果と比較しても、わずかに重要度が上昇しており、農業・商業振興への期待が高まっているといえます。

地域経済の活性化を図るためには、農業、商業、工業、観光などの地域産業の振興を図り、企業誘致の推進を含め安定した雇用環境の整備と賑わいを創出していくことが重要です。それぞれの産業分野で対策を強化することに加えて、相互の連携を強めることにより町の特色を発揮した新たな取組を始めることが求められています。

#### ■雇用力(雇用割合)と稼ぐ力(特化係数)の状況



## ■事業所従業者数の推移

単位：人	平成21年	平成24年	平成26年	平成28年	平成28年/ 平成26年
	2009	2012	2014	2016	2016/2014
みやき町	8,701	8,966	9,143	9,402	102.8%
鳥栖市	38,892	37,279	39,557	40,434	102.2%
神埼市	10,554	9,952	10,443	10,144	97.1%
吉野ヶ里町	7,540	7,209	6,678	7,115	106.5%
基山町	7,036	6,861	7,535	7,634	101.3%
上峰町	4,318	4,275	4,763	4,537	95.3%

## ■事業所従業者数の推移

単位：事業所	平成21年	平成24年	平成26年	平成28年	平成28年/ 平成26年
	2009	2012	2014	2016	2016/2014
みやき町	894	876	905	871	96.2%
鳥栖市	3,064	2,981	3,134	3,106	99.1%
神埼市	1,227	1,145	1,163	1,124	96.6%
吉野ヶ里町	499	462	477	478	100.2%
基山町	615	590	607	616	101.5%
上峰町	356	338	375	366	97.6%

出典：経済センサス

## ■みやき町のまちづくりの満足度・重要度

今回調査	満足度	重要度
町の取り組み 31 項目の平均値	2.95	3.86
1. 【農業】に関する施策	<u>2.79</u>	<u>4.02</u>
2. 【工業】に関する施策	<u>2.75</u>	3.85
3. 【商業】に関する施策	<u>2.72</u>	<u>3.99</u>
4. 【観光】に関する施策	<u>2.73</u>	3.58

前回調査	満足度	重要度
町の取り組み 37 項目の平均値	2.94	3.86
13. 絆づくりで意欲あふれる農業のまち【農業】	<u>2.85</u>	3.83
14. 次世代を切りひらく新産業のまち【工業】	<u>2.57</u>	<u>4.00</u>
15. 身近なサービスが充実したまち【商業】	<u>2.76</u>	3.79
16. 資源を活かし楽しさを発信するまち【観光】	<u>2.77</u>	3.61

※満足度の下線は平均よりも満足度が低い項目。重要度の下線は、平均よりも重要度が高い項目

出典：総合計画策定のためのアンケート調査

## （４）地球環境問題への対応

化石燃料の大量消費や世界的な人口増加等により、二酸化炭素等の温室効果ガスの排出量が増加しています。地球温暖化問題は、生態系や生物多様性、食料や健康等、世界中のあらゆる場所に影響を及ぼす問題であり、今後の世界の持続可能性の確保のため、「持続可能な開発目標」（SDGs）の考えが重要となっています。

特に、生態系への影響は病原体の伝播と関連があることが指摘されており、未知のウイルス等による感染症拡大を未然に防ぐという点でも、環境問題への対応は今後重要な取り組みであるといえます。

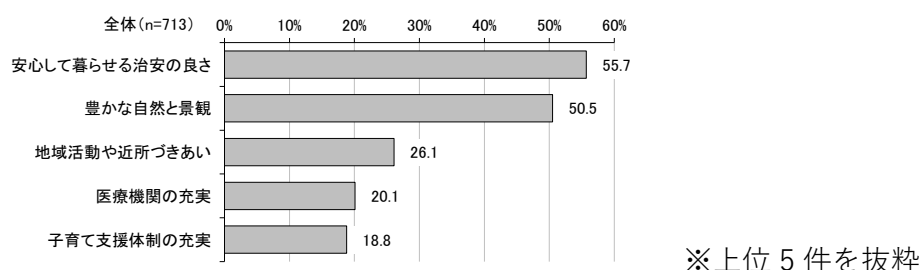
### 【みやき町の現状】

本町のアンケート調査結果では、定住意向ありの人が感じるみやき町の魅力は、「安心して暮らせる治安の良さ（55.7%）」に次いで、「豊かな自然と景観（50.0%）」が高くなっています。また、住民ワークショップでは、自然の豊かさを町の「いいところ」に挙げる声が多く寄せられており、住民が誇りに思う地域資源の一つになっています。

美しく豊かな水と緑に恵まれたみやき町の自然環境を守るため、温暖化などの地球規模の

環境問題を身近なものとして捉え、自然と共生した持続可能な循環型のまちづくりを進めていくことが必要です。

■「問 3-2」で「住み続ける」「おそらく住み続ける」に○をつけた方  
問 3-3 あなたが思う、みやき町の魅力は何ですか。



出典：総合計画策定のためのアンケート調査

## (5) 安全・安心への意識の高まり

近年、地震や台風をはじめとした大規模な自然災害が全国で頻発しており、防災・減災への意識が高まっています。国においては、国土や経済、暮らしが災害などにより致命的な損傷を負わない強さと、速やかに回復するしなやかさを備えた社会の仕組みを構築していく「国土強靱化」の取組が進められています。

また、自然災害だけでなく、子どもや高齢者を狙った犯罪の発生、感染症の流行、交通事故など、さまざまな分野における危険への意識も高まっており、危機管理体制の充実と、犯罪や事故のない安全な社会づくりが求められています。

### 【みやき町の現状】

令和 3 年 8 月豪雨災害では、記録的大雨により、みやき町でも土砂崩れや民家・事業所の浸水、各地域で河川の増水や土砂災害に伴う道路の損壊などの被害が発生しています。

また、犯罪（刑法犯）認知件数や交通事故発生は、平成 28（2016）年以降減少傾向にあり、犯罪率は全国的な水準より低く推移しているなど、安全安心な住環境が町の特性といえます。

一方で、高齢者がかかわる犯罪、交通事故、空き家の増加による治安悪化、地域活動の停滞による自主防災・防犯機能の低下など、様々な問題の発生が今後懸念されます。

安全安心な暮らしの実現のためにも、日ごろから備えるという意識を住民一人一人が持ち、地域における防犯・防災力の底上げが必要です。

### ■犯罪認知件数と交通事故発生件数の推移

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
	2015	2016	2017	2018
犯罪認知件数（件）	123	149	133	109
犯罪率（%）	487.8	592.4	527.2	429.6
犯罪率【佐賀県】（%）	653.8	616.1	527.2	438.1
犯罪率【全国】（%）	864.7	784.8	722.2	646.4
交通事故発生件数（件）	282	225	223	179

出典：さが統計館「佐賀県統計年鑑」

## （6）情報通信技術の普及と新たな展開

情報通信技術（ICT）の飛躍的な発達と、情報通信機器の普及・多様化により、人々の生活、経済活動、サービス、社会の仕組みなどが大きく変化しています。近年は、自動車や家電などあらゆるモノがインターネットにつながるIoT、AI（人工知能）の活用や5Gの推進が注目されており、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための在宅勤務（テレワーク）やWEB会議が一般的になるとともに、医療や福祉、働き方、行政運営など、様々な分野において、今以上に便利で効率的になる、ライフスタイルの新しいステージである“Society5.0”への移行が期待されています。

### 【みやき町の現状】

全国的な人口減少と少子高齢化が進行する中で、特に福祉分野における負担増と人材不足が大きな問題として認識されており、新技術の導入による現状の打破は大きく期待される所です。本町では、令和3（2021）年度には企業との「自治体DXの推進」を目的とした連携協定を締結し、デジタル技術やデータの活用によって、行政サービスにおける住民の利便性向上や地域産業の振興を目指しています。

今後は、大学や民間企業等との連携を図り、新技術について動向を探るとともに、特に効果が大きいと想定される分野から優先的に技術を活用していくことが重要です。

※IoT:

従来インターネットに接続されていなかった様々なモノ（センサー機器、駆動装置（アクチュエーター）、住宅・建物、車、家電製品、電子機器など）が、ネットワークを通じてサーバーやクラウドサービスに接続され、相互に情報交換をする仕組み。

※DX:

情報通信技術の浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること。

## （7）持続可能な行財政運営の推進

人口の東京一極集中が進む一方で、地方の市町村では、人口減による自治体の歳入減と並行し、高齢化の進展による社会保障費用の増大、老朽化の進む公共建築物やインフラの整備・改修などが喫緊の課題として浮上しており、今後は、新型コロナウイルス感染症による税収減も予想され、その継続的な運営をおびやかすような、困難な状況に直面しています。

### 【みやき町の現状】

普通会計における歳入の状況をみると、自主財源の多くを占める町税収入は増加で推移しています。また、ふるさと納税寄附金は、令和2年度実績で約23億4,053万円の寄附金額となっています。

歳出については、年々増加傾向にあり、今後、当面コロナの影響は避けられず、また高齢化と生産年齢人口の減少に伴い、町税収入は将来的に減少していくことが想定され、加えて、社会保障経費や公共施設の更新・改修費用などの増加が予想されます。

地方自治体の持続可能性を確保するために、より効率的な行財政運営が求められており、行財政改革や自治体間の連携などを進め、限られた資源を有効に活用する取組が必要となっています。

また、情報公開に努め、コンプライアンスの強化を図ると共に、住民が行政活動を知るこ



とができ、積極的に参画できる体制づくりの推進が求められています。

■歳入（単位：千円）

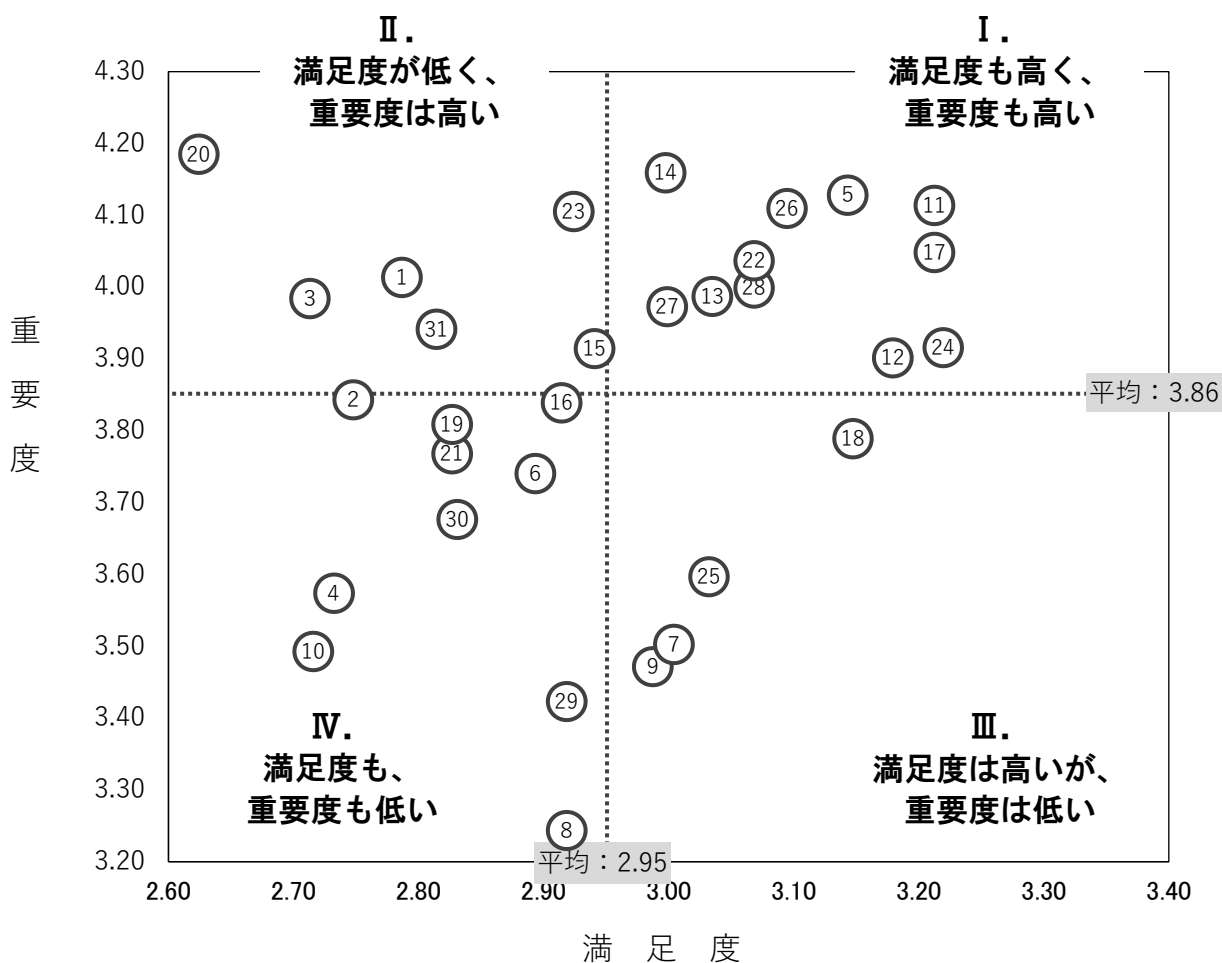
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	2015	2016	2017	2018	2019
町税	2,561,642	2,635,271	2,694,155	2,674,816	2,754,255
地方譲与税・交付金	624,236	566,984	599,477	612,295	623,388
地方交付税	3,858,953	3,861,160	3,859,657	3,655,145	3,794,053
その他の収入	1,280,729	1,710,827	2,952,897	5,526,484	3,713,686
計（歳入一般財源等）	8,325,560	8,774,242	10,106,186	12,468,740	10,885,382

■歳出（単位：千円）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	2015	2016	2017	2018	2019
歳出合計（一般財源等充当）	7,916,083	8,068,340	8,548,168	10,014,123	10,284,360

出典：財政状況資料集

■みやき町のまちづくりの満足度・重要度



	満足度	重要度
1. 【農業】に関する施策	2.79	4.02
2. 【工業】に関する施策	2.75	3.85
3. 【商業】に関する施策	2.72	3.99
4. 【観光】に関する施策	2.73	3.58
5. 【教育】に関する施策	3.14	4.14
6. 【生涯学習】に関する施策	2.89	3.76
7. 【スポーツ】に関する施策	3.00	3.51
8. 【文化芸術】に関する施策	2.92	3.25
9. 【歴史伝統】に関する施策	2.99	3.48
10. 国際・地域間交流に関する施策	2.72	3.51
11. 【健康づくりの基盤整備】に関する施策	3.21	4.13
12. 【健康づくり】に関する施策	3.18	3.91
13. 【地域福祉】に関する施策	3.04	4.00
14. 【高齢者福祉】に関する施策	3.00	4.17
15. 【障がい者(児)福祉】に関する施策	2.94	3.93
16. 【ひとり親家庭・低所得者福祉】に関する施策	2.91	3.85

	満足度	重要度
17. 【子育て支援】に関する施策	3.22	4.06
18. 【青少年健全育成】に関する施策	3.14	3.80
19. 【都市計画】に関する施策	2.83	3.80
20. 【交通環境】に関する施策	2.62	4.20
21. 【情報通信技術】に関する施策	2.83	3.80
22. 【上下水道】に関する施策	3.07	4.04
23. 【環境保全】に関する施策	2.92	4.11
24. 【環境衛生】に関する施策	3.22	3.93
25. 【生活環境】に関する施策	3.04	3.61
26. 【防犯】に関する施策	3.09	4.12
27. 【交通安全】に関する施策	3.00	3.98
28. 【消防・防災】に関する施策	3.07	4.03
29. 【コミュニティ・住民参画】に関する施策	2.92	3.43
30. 【情報公開】に関する施策	2.83	3.69
31. 【行財政】に関する施策	2.81	3.95
平均	2.95	3.86

出典：総合計画策定のためのアンケート調査

## 2 人口推計

令和2（2020）年3月に策定した、「第2期みやき町人口ビジョン」では、平成27（2015）年までのデータを用いた社人研の推計を、独自に推計した令和2（2020）年の推計人口値を用いて補正し、本町が独自に設定する各種の条件（パターン）に基づき将来人口推計を行いました。

このたび、令和2（2020）年の国勢調査の結果が公表されたことから、令和2（2020）年実績値を踏まえ、将来推計を行います。

### ■推計結果人口

	平成27 (2015)年	令和2 (2020)年	令和7年 (2025)年	令和12 (2030)年	令和17 (2035)年	令和22 (2040)年	令和27年 (2045)年	令和32 (2050)年	令和37 (2055)年	令和42 (2060)年	令和47 (2065)年
第2期人口ビジョン	25,278	25,117	24,729	24,229	23,679	23,049	22,501	22,041	21,644	21,249	20,777
本計画人口推計	25,278	25,437	25,113	24,650	24,128	23,521	22,982	22,532	22,155	21,778	21,330
0～14歳	2,998	3,337	3,431	3,249	2,998	3,071	3,151	3,186	3,215	3,244	3,250
15～64歳	13,945	13,258	12,653	12,517	12,428	11,855	11,267	10,829	10,594	10,791	11,040
65歳以上	8,335	8,842	9,030	8,884	8,702	8,595	8,564	8,517	8,346	7,742	7,040
(75歳以上)	4,077	4,501	5,378	5,777	5,715	5,370	5,164	5,204	5,299	5,302	5,060

※太枠は実績値

※「本計画人口推計」令和2年実績の値は年齢不詳を含まない。

### ■人口推計の条件（パターン）

	第2期人口ビジョン	本計画
基準年	2015年	2020年
推計年	2015年～2060年	2025年～2060年
概要	町独自で出生や移動に関して異なる仮定を設定	
出生に関する仮定	合計特殊出生率は、佐賀県『佐賀県における人口の将来推計（佐賀県人口ビジョン）』に準拠。 令和2（2020）年1.77、令和12（2030）年1.8、令和22（2040）年2.07に上昇したと仮定。	
死亡に関する仮定	社人研の推計に準拠。	
移動に関する仮定	移動（純移動率）は、令和12（2030）年までは「30～34歳」から「70～74歳」で3%、「0～4歳」から「5～9歳」で1%上昇して推移すると仮定し、令和12（2030）年以降は、全世代がゼロ（均衡）に収束すると仮定。令和12（2030）年以降も、均衡したうえで、「30～34歳」から「70～74歳」で3%、「0～4歳」から「5～9歳」で1%は上昇するものとする。	

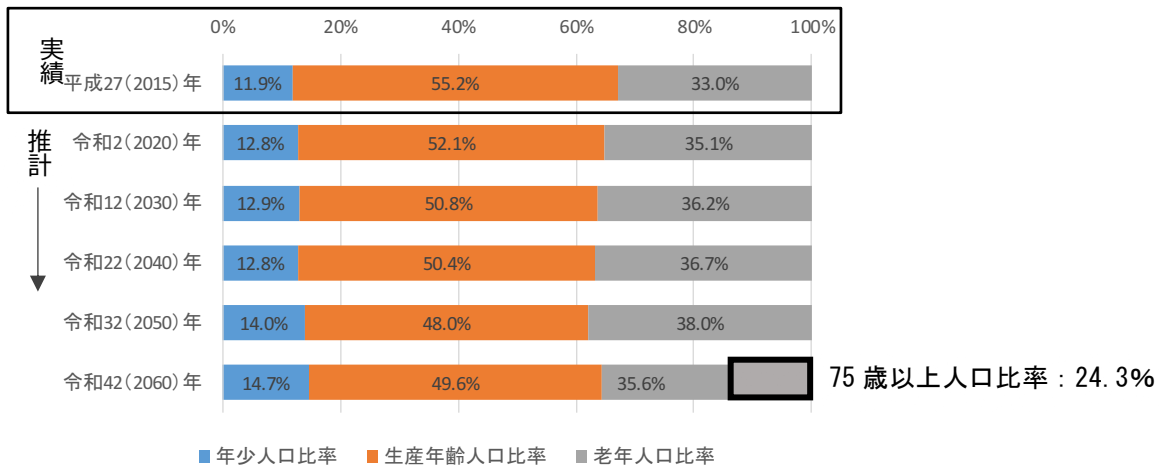
【参考：第2期人口ビジョンと本計画の将来人口推計における人口比率の比較】

第2期人口ビジョンでは、将来総人口の減少は避けられないものの、年齢区分別人口比率では、年少人口比率が平成22年（2010）以前の割合に戻るなど、人口の若返りが期待できる人口フレームとして、令和42（2060）年の将来人口展望を21,000人に設定しました。

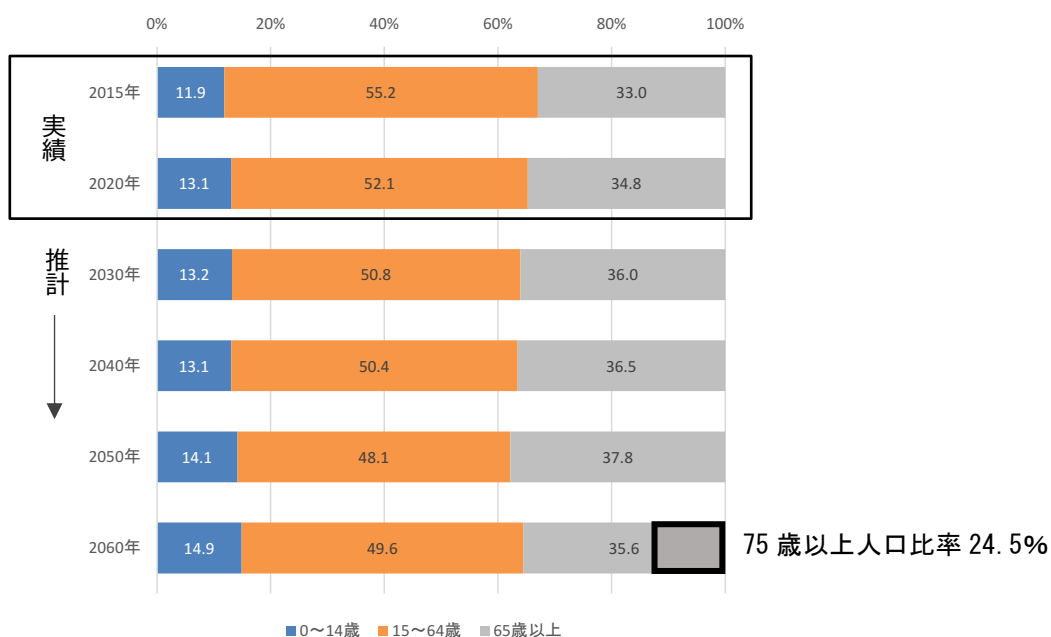
第2期人口ビジョンで設定した将来人口比率と、本計画推計における将来人口比率を比較すると、本計画における推計では、15～64歳の生産年齢人口は49.6%、65歳以上の老年人口比率は35.6%で第2期人口ビジョンにおける推計と同率となっています。同様に、0～14歳の年少人口比率は、14.9%で0.2ポイントとごくわずかな増加にとどまっています。

したがって、安定的な人口規模を確保し、人口構造の若返りを図るために、引き続き、令和42（2060）年の将来人口展望を21,000人とします。

【第2期人口ビジョンにおける将来人口比率】



【本計画推計における将来人口比率】



## 第3章 第二次計画における重点目標の振り返り

### 1 「健幸長寿」のまちづくりの推進

平成 29（2017）年度の本町の一人あたり国保医療費は 550,121 円で佐賀県ワースト 1 位であり、平成 30（2018）年度後期高齢の一人あたり医療費は 1,169,678 円でこの分野でも佐賀県ワースト 4 位となっています。本町は高度医療が充実した福岡県久留米市と隣接しており、急性期医療に関しては恵まれた受診環境にある一方、厚生労働省が推奨するセルフメディケーション（自身の健康に責任を持ち、日頃から体調管理を行う意識を高め、軽度な身体の不調は薬剤師等に相談しながら自分で手当てすること）の分野においては、一層の住民意識向上を図る必要があります。更なる医療費適正化に努めることは、町として喫緊の課題です。この観点から、本町では、平成 29（2017）年度より「メディカルコミュニティみやき」プロジェクトに着手し、以下の取り組みを進めています。

#### 「メディカルコミュニティセンター」の整備

公民連携による健康へのアプローチを図り、子どもから高齢者まですべての方の心と体の健康づくりを目的として、既存のプール施設である B & G 海洋センターを含めた健康づくりの拠点となる健康増進複合施設「メディカルコミュニティセンター」を令和 3（2021）年にオープンしました。

#### 予防医療の推進

予防医療の拠点として、「メディカルコミュニティセンター」において、各種設備・診断の充実を図るほか、トレーニングジムやプール、スタジオ等を活用した各種運動教室を開催し、健康につながる「習慣づくり」の支援体制を整えています。

町民全体のセルフメディケーションの意識の醸成のためには、施設への集客力を高めることが必要であり、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、各種教室・イベントを展開していきます。

## 2 子育て支援のまちづくりの推進

「子育てするなら、みやき町」として、平成 24（2012）年 9 月に「子育て支援のまち宣言」を行い、子育て環境の充実にに向けた取り組みを進めています。本町は、子育て世代にあたる女性の就業率も高く、共働き世帯の増加や核家族化の進行による子育てに対する負担の増大、子育ての孤立化等のさまざまな課題に対し、きめ細かな対応が求められています。

この観点から、本町では、第二次計画において、「子育て支援のまちづくりの推進」を重点目標に掲げ、以下の取り組みを進めています。

### **P F I を活用した子育て世代向け住宅の整備**

平成 26（2014）年以降、集合住宅、戸建て問わず、P F I を活用した定住促進住宅整備事業を推進しています。

### **地域子育て支援拠点（児童館「こども未来センター」）の充実**

多様化する保育ニーズに対応するため、みやき町児童館「こども未来センター」を中心に、子ども・子育て環境の充実に取り組んでいます。

### **子育て支援の充実**

通学支援バスの運行、子どもの医療費無料化、給食費無料化等、子育て世帯に対する経済的な支援を推進しています。

## Ⅱ 基本構想

---

### 第1章 まちづくりの基本理念

めまぐるしく社会が変化する中で、みやき町がこれからも活力にあふれ、賑わいのあるまちであり続けるためには、わたしたちのかけがえのない財産である、住民同士の強いつながり、豊かな里山・田園景観、水辺環境、先人によって培われてきた暮らしのぬくもりと歴史・文化を守り、活かしていくことが大切です。

みやき町は、こうした「これまでのみやき町の魅力」に磨きをかけるとともに、「新たなみやき町の魅力」を創出し、誰もが住み続けたいと思う、魅力あるまちの実現に向けて、次の基本理念を掲げます。

#### **未来に躍動する「共感」のまち**

住民の「笑顔」、人と人がつながる「優しさ」、それを活かす「創造」。この3つの視点から、未来の「まち」をつくっていきます。

すべての人が個性と能力を発揮することができる「地域共生社会」、次の世代に託すことのできる「明るい社会」を実現するためには、行政だけではなく、住民一人一人が地域に役割と責任を持ち、さまざまな人と協働して地域課題の解決に向けて取り組む必要があります。

子どもから高齢者まで、安心して生活でき、活力や賑わいを実感できるまちづくりを進めるため、みやき町は、一人一人の多様性を受けとめ、人と人、人と地域がつながる「共感」を育むと共に、未来志向で力にあふれるまちを目指します。

## 第2章 重点方針

基本構想に掲げる目指す基本理念を実現するため、町と住民、また住民同士の「共感」により推進するまちづくりの3つの方針を掲げ、あらゆる分野で施策を展開します。

### 1 笑顔が見える 健やかなまちづくり

- ◇住民一人一人が生活習慣や運動に対する意識を高め、健康づくりに取り組むことで、誰もがいきいきと活躍できるまちづくりを推進します。
- ◇スポーツや文化活動を通じて体と心を健やかに保ち、笑顔で暮らせるまちづくりを推進します。
- ◇景観・歴史・文化などの豊かな町の魅力に包まれ、心も健康を感じることができるまちづくりを推進します。

### 2 優しさあふれる 心豊かなまちづくり

- ◇未来を担う子ども達が生まれ・育ち・社会に羽ばたくまで、明るくのびのびと成長できるまちづくりを推進します。
- ◇地域間・世代間コミュニティを育み、人と人との温かみのあるつながりを大切にしまちづくりを推進します。
- ◇誰もが多様性を受け入れ、思いやり、支え合うまちづくりを推進します。

### 3 住民が創る 住み続けたいまちづくり

- ◇防災・防犯の意識と取組の充実を図り、いつまでも安全・安心に暮らせるまちづくりを推進します。
- ◇「ひと、インフラ・空間、技術」に着目し、生活や産業などのあらゆる分野で明るい未来を感じることができるまちづくりを推進します。
- ◇町と住民がそれぞれの役割と責任を担い、まちづくりのパートナーとして、住民の知恵と力を活かした「住民が主役」のまちづくりを推進します。



# 第3章 計画の体系



**実行計画**

計画期間を11年間とする、中長期的なまちづくりの指針

# 基本構想

## 実行計画

目標管理と PDCA サイクル及び主要施策に基づく予算編成を行い、前期（3年間）・中期（4年間）・後期（4年間）の各期で見直しを図り、計画の着実な推進を図る。

